

令和 7 年度 第3回裾野市環境審議会 要旨

日 時	令和 7 年 11 月 4 日(火) 15:00～16:55
場 所	市役所 4 階 401 会議室
出席者	委員 8 人（欠席委員 1 人）
	事務局 5 人（環境市民部長 生活環境課長 他課員 3 人）
<p>1 開会 委員 9 人中 8 人の出席 裾野市環境審議会規則第5条第2項に基づき審議会の成立を確認</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議事 審議会規則第 5 条第 1 項により会長が議長となり進行する 議題 第 3 次裾野市環境基本計画(案)の内容確認 ◎ 第 1 章～第 4 章、第 7 章の修正点について 事務局が説明 【第 2 回審議会における質疑に対する対応表について】 <質疑・意見> ・ 富士山資料館は今後、存続していくのか ⇒ 担当課に確認する ・ 望ましい環境像はこのタイミングで最終決定か ⇒ パブリックコメントもありまだ最終決定ではない <まとめ> ・ 富士山資料館については確認を</p> <p>◎ 第 5 章について 事務局が説明 <第 3 節 温室効果ガス排出量の削減目標に対する意見・質問(⇒回答)> ・ P54[3-2]再生可能エネルギー導入目標 再生可能エネルギーとして太陽光発電に依存しているが、二次災害的に市民に及ぼす影響や太陽光パネルの危険性についても検討が必要である旨の記載があっても良いのではないか。 ⇒ P60に追記する ⇒ 計画書の余白に懸念される問題点についての記載を検討する ・ P53 削減目標表中の「再生可能エネルギー」の数値と P54 電力生産割合表中の「再生可能エネルギー生産量」の関係性がわからない ・ P54 電力生産割合表中で2030年の太陽光発電量が2050年に約2.5倍になっているが裾野市の特性を加味しての内容か ⇒ 推計数値は裾野市の個別要因は加味していない ・ 太陽光パネルの廃棄について加味された数値か ・ 太陽光発電量の積み上げは何に基づくものか</p>	

⇒ 太陽光発電の積み上げは2022年の固定価格買取制度(FIT)の数値で、未来分は環境省の排出量カルテの過去推移からの推計数値。

- ・ 目標数値が高すぎるのではないか
- ・ P84 の資料に電力排出係数が記載されており、2050年の電気事業者による改善が2022年の10倍となっており、将来見込み数値であるので疑問がある
- ・ 注2により P81 の資料を確認すると産業部門の従業員数は2022年度を維持し、業務その他の従業員数は減っているが、裾野市はこのような見込みか。

⇒ 総合的には2050年のカーボンニュートラルを目標にした数値設定としているため他の数値を設定しにくい

- ・ 企業誘致による産業の増加があるならそれを見込む方が良いのではないか

<気候変動について意見・質問>

- ・ P55 気候変動の将来予測について、直近の気候変動データを踏まえた予測を立てた方が良いのではないか
- ・ IPCC からでた第6次評価書を参照したほうが良いが、最新データの取り込みが当計画で間に合わない場合は、第3次計画の中間見直しで考慮してほしい

<その他意見・質問(⇒回答)>

- ・ P61【家庭部門】「デコ活」とは何か。なぜそのような名称か

⇒ 脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動の略称(環境省のホームページに記載されている)

◎ 第6章について

事務局が説明

<意見・質問(⇒回答)>

- ・ P73 ほか 30by30の対象となる陸域30%は里山でなければいけないのか
⇒ 人工林であっても保護していくことで30by30に登録できる
- ・ P74 人と自然のふれあいのの中で、都市公園を増やさなければいけないと読み取れてしまうため、敢えて都市公園について記載しなくてもよいのではないか
⇒ 都市公園の記載については検討する
- ・ P75②農地の有機肥料を利用する環境保全型農業は実際に取り組まれているか
⇒ これからの取り組みとなる
- ・ P75②河川の海洋プラスチックごみを減らすためには、単にごみの減量ではなくごみを捨てないように強めの文章にすることはできないか
- ・ P76④生物多様性の取り組みの地域環境と調和のとれた食糧生産・消費に関連した食育の推進は実際に取り組まれているか
⇒ これからの取り組みとなる
- ・ 単にごみを減らすというだけの目標ではなく、P76④生物多様性の教育のところに人とのつながりを促進するという意味合いの取り組みを加えてはどうか
- ・ 裾野市の良いところは豊富な水と河川のきれいさであると思うので、河川の保全を前面に押し出すような内容であることが望ましいのではないか。
- ・ 裾野市の森林吸収量は落ちてきていると思う。森林吸収の観点からは樹齢30年から40年の杉が一番吸収力が多いとのデータがあるので、その循環を維持できるような計画的な植樹と伐採が必要である
- ・ 生物多様性の観点からは広葉樹を増やし保全することが望ましいと考えるが、脱炭素の観点からは針葉樹の人工林を整備したうえで適時管理していくことが必要

◎ 全体について

<質問・意見(⇒回答)>

- ・ 望ましい環境像を「未来に紡ぐ」とした経緯は
 - ⇒ 改めて職員から提案してもらったなかから選んだ言葉
 - ⇒ 水と緑と人が調和していることが大前提で、ただ調和しているだけではなく、まちはこれからも未来に向けて持続的に発展していかなければいけないということで、調和している状態が継続していきながら裾野市というまちがこの先もずっと続いていくよということが望ましい姿であるというところで将来像とした
- ・ P82温室効果ガス排出量の推計で2030年の家庭部門が 2022 年より増えているのは誤りではないか
 - ⇒ P81 住宅総数が2030年まで増加するというデータに基づいている
 - ⇒ P81 活動量の推計表でも家庭部門では2030年までは世帯数が増えるという推計とも関連性がある
- ・ P84 指標の設定値表の運輸部門、公共交通機関の利用者割合が増加しているが電車バス以外の公共交通機関か
 - ⇒ 公共交通機関の該当機関を確認する
- ・ 公共交通機関の対象は規定を示すことが必要
- ・ P84 同表廃棄物処理部門、燃やすごみに含まれる水分は61.9%の維持となっているが、生ごみたい肥化の施策は取れないか

<事前にメール提供した資料の修正点>

- ・ P26 第 2 章 4-4 不法投棄グラフ「苦情件数はグラフ化されていないのでグラフタイトルを変更する
- ・ P29 最下段「2024(令和 6)年度以降、重複部分を削除
- ・ P40 第 4 章各主体の共通目標 生活排水処理率●%ではなく 2030 年度と同じ数を記載する
- ・ P44 第 4 章各主体の共通目標 単位の誤り 666.5/人・年 ⇒ 666.5/人・日
- ・ P48 第 4 章各主体の共通目標 クルポ関係が漏れている

<まとめ>

- ・ 策定に関与した資料編のデータ根拠について質問が多かったので次回にフォローしていただきたい

4 その他

今後のスケジュールと次回開催日について

- ・ 12月1日～1月5日の予定でパブリックコメントを実施する
- ・ パブリックコメントで出された意見を反映した内容の確認を第4回の審議会で検討していただく
- ・ 第4回審議会後に諮問に対する答申をする予定
- ・ 市長等のスケジュールにより次回第4回審議회를2月17日(火)15時から開催する

5 閉会

16:55